横浜市立 すみれが丘小学校　令和 4 － 6 年度版　中期学校経営方針　（ 令和 5 年度修正 ）

学校教育目標	【すすんで　みんなで　れいをつくして　がんばりつづけて　おもいあって　かがやきつづける　すみれっ子】 豊かな人間関係の中で一人ひとりが自分のよさを十分に発揮し、互いに高め合い認め合う子を育てます。 ○互いの考えを認め合い、自分の考えを表現し、課題解決に向けて粘り強く取り組むことができるようにします。（知） ○いろいろな人とすすんでかかわり合い、思いやりの気持ちや礼儀を大切にして行動できるようにします。（徳） ○自他の身体を大切にし、自ら進んで心と体の健康づくりに取り組むことができるようにします。（体） ○すみれのまちの一員として地域社会を知り、自ら役に立つために行動できるようにします。（公） ○さまざまな人とコミュニケーションをすすんでとり、多様な考え方を尊重できるようにします。（開）

学校概要					
創立　48　周年	学校長　栗原　信一	副校長　阿部　一平	2　学期制	一般学級：12	個別支援学級：3
児童生徒数：　人	主な関係校：　中川西中学校				

教育課程全体で育成を目指す資質・能力
自分づくりに関する力 言語能力

中川西中ブロック	小中一貫教育推進ブロックにおける育成を目指す資質・能力を踏まえた「9年間で育てる子ども像」と具体的取組
中川西中	つながりの中で、あいさつをしっかりし、認め合い、認め合い、励まし合い、高め合い、自らの課題を見つけ、解決しようとする子 ○授業交流を通して、小中一貫カリキュラム改善を組織的に推進し、共通理解を深める。 ○生徒指導専任と児童支援選任との連携を強め、児童・生徒の問題行動を未然に防止する環境づくりを目指す。 ○児童と生徒の交流を行うことにより、小・中学校間のギャップを少なくする。

中期取組目標	
	○いろいろな人との豊かなかかわり合いを通して自分や他者のよさを理解し、自分の思いをいきいきと表現できる子を育てます。 ・対話的な学び、体験的な学びなどを通して、主体的に友達と学び合い、自分の考えを表現し、深めていけるようにします。 ・交流活動や体験活動を重視し、互いに認め合う心や自尊感情、自己有用観を高め、自信をもてるようにします。 ・児童理解に基づいた児童指導を全教職員の共通理解のもとに進め、迅速・正確・丁寧に対応し、問題の早期発見、早期解決に努めます。 ・学校運営協議会、地域学校協働活動【ビオラ応援団】、PTA組織を連動させ、地域、学校が一体となって児童の健全育成に努めます。

重点取組分野		具体的取組
知	授業改善	①本校児童の実態を把握する中で、課題を明確にした授業展開に努め、主体的・対話的で深い学びへと繋げていく。②昨年度に引き続き、算数科を重点教科とし、育てたい資質能力の育成に努める。③授業研究会を軸に、教員の授業力向上に努める。また、ICTを積極的に活用し、児童の学びの一助としていく。
担当	研究・研修部	
徳	人権教育	①本校の特色である異学年交流を活発化させ、他者意識を高める中で、自他を大切にする心情を育てる。②心の健康に焦点を当て、児童の自主的な活動を通した取組を進めていく。③多様性を尊重する心を育むにあたり、低・中・高学年の実態に応じたテーマ設定を行い、取り組んでいく。
担当	児童指導部	
体	健康教育	①新型コロナ感染症が5類となる見通しだが、引き続き、手洗い、換気等に感染症予防に努める。②一校一実践運動では大縄等、これまで制限された種目にも取り組み、体力の向上を図る。③担任や教科担当と連携し、養護教諭、栄養士の専門知識を生かした授業を全学年で展開する。
担当	体育部・保健部	
公開	自分づくり教育（キャリア教育）	①横浜教育ビジョン2030、「自ら学び　社会とつながり　共に未来を創る人」を教職員が共通理解し、社会につながる教育課程を推進する。②令和4年度の実績をもとに、本物に触れる教育活動を推進するにあたり、出前授業を教育課程に位置づける。
担当	研究・研修部	
いじめへの対応		①いじめ防止対策委員会の定期開催だけでなく、事案発生時の早期開催、早期対応に努めていく。②いじめ案件の防止に向け、記名式アンケートを追加実施し、定期的な調査から情報収集し未然防止に繋げていく。③横浜プログラムを効果的に活用し未然防止に繋げる。
担当	いじめ防止対策委員会	
人材育成・組織運営(働き方)		①全教職員が人材育成の意識をもち、組織的な学校運営へと繋げていく。そのために定期的に主幹会を設け情報共有に努める。②ミドルリーダーをメンター長に充て、教職員の日々の悩みや課題に寄り添った研修を実施していく。③働き方改善プロジェクトチーム（2期目）を発足する。
担当	教務部・メンターチーム	
児童生徒指導		①児童支援専任を中心に特別支援教育コーディネーターが効率的に連携できる組織の構築を目指す。各学年ブロックに特別支援コーディネーターを配置する。②令和4年度末に改訂したスタンダードを定着させる。③ケース会議の方法など、研修の機会を年間計画に位置づける。
担当	児童指導部	
環境教育		①児童の安心、安全を第一に、全教職員で校内環境整備に取り組んでいく。②児童自らが環境に視点をあてた活動を推進していく。③技能吏員、事務職員と連携し、学校環境整備やゴミの分別等を確実に行う。③司書教諭、学校司書を中心に、図書館環境のさらなる環境整備に努める。
担当	児童指導部	
地域学校協働活動		①ビオラ応援団（地域学校協働活動）発足2年目となる。学援隊（登下校見守）、授業サポーター、サークル活動（授業支援）をさらに活性化し、持続可能な組織としていく。②学校・地域コーディネーターとの連携、協働をさらに深めながら、地域、保護者への活動の啓蒙を図っていく。
担当	教務部	
特別支援教育		①特別支援教育の充実に向けた研修計画を立て、課題を抱える児童への対応力を高める。②ユニバーサルデザインの視点を意識した教室環境整備、授業改善に努める。③保護者と課題を共有し連携を深める。④ICTの活用の有効性を意識し、不登校傾向にある児童を支援していく。
担当	特別支援教育委員会	